

【主題】 わたしたちの情報活用宣言

【副題】 ～身につけようメディアリテラシー・情報モラル～

さいたま市立植竹小学校

1. ねらい

私たちの周りにはたくさんの情報があふれている。インターネットなど身近にある機器を用いれば、短時間に大量の情報を手に入れることができ、年々、私たちの生活は便利になってきている。しかし、その情報の全てが信頼できる情報ばかりではない。間違った情報や古くなってしまった情報もある。そこで、他のホームページや書籍・人・新聞などの情報と比較し、正確な情報かどうかを判断できる力を身につけさせたい。

また、情報機器の普及率が高くなり、携帯電話を持っている子ども達も少なくない。携帯電話は情報を収集するだけでなく、新たなコミュニケーションツールとしても大変有効なものである。しかし、その反面、マナーや正しい活用を身につけていなければ、トラブルの原因になったり、犯罪に巻き込まれたりする可能性も含んでいる。活用するには十分な知識、マナーが必要である。加えて、相手を不快にさせないような文章の作り方や、相手を考えた情報の提供についても学ばせたい。

2. 指導計画

○5年生の社会科「情報を生かすわたしたち」（東京書籍）と関連・発展させた指導

- 第1時 情報に囲まれて
- 第2時 情報化とわたしたちの生活
- 第3時 身近に潜む危険
- 第4時 受け取る情報、発信する情報（1）
- 第5時 受け取る情報、発信する情報（2）
- 第6時 わたしたちの情報活用宣言

3. 授業実践（指導内容と留意点）

（1）情報に囲まれて

「情報化社会」という言葉を知る。わたしたちの周りには多くの情報であふれており、それらはインターネット、携帯電話、テレビ、新聞、ラジオなど様々なツールからもたらされていることを押さえる。

（2）情報化とわたしたちの生活

授業でのインターネットを活用した調べ学習、テレビの地デジ化、携帯電話の普及など、生活の至る所に情報化の波が押し寄せていることを知り、それらによってわたしたちの生活がより便利になっていることを実感させる。

（3）身近に潜む危険

一人一台が当たり前になっている携帯電話。本校の児童も例外ではなく、既に持っている児童は少なくない。使い道について聞くと、保護者との連絡が主たる使い方だが、ウェブページ閲覧、友だちとのメールのやりとりなどを行っている児童は多く、中にはブログを開設している児童もいる。十分な知識や経験、マナーがあれば、何ら問題がない使い方ではあるが、保護者から使い方の説明や、守るべきマナーについて十分に教わっているとは言い難く、保護者の目が行き届いているとも言い難い。その結果、悪質サイトからの架空請求、友だち間での過度なメールのやり取りによるトラブル等に巻き込まれる可能性がある。ここではDVD『ちょっと待て、ケータイ-被害者にも加害者にもならないために-（日本視聴覚教育協会）』を見て、携帯電話という身近なツールを元に起こった事件を知り、使い方次第では大きな問題になることを実感させる。

（4）受け取る情報、発信する情報（1）

ここではウェブページを例にメディアリテラシーについて学習する。ウェブページの良さと特性について考え、その情報は、すべてが正しいとは限らないことを押さえる。多くの情報の中から必要な情報を自分で選び出し、活用する能力や技能を身につけさせたい。また、問題のある情報に出会ったときの対処法についても触れたい。

（5）受け取る情報、発信する情報（2）

ここでは携帯電話を例に情報モラルについて学習する。メールの良さと特性について考え、メールでのやりとりは、必ずしも良い結果ばかりではないことを押さえる。また、個人情報の扱いや、掲示板での中傷の書き込み、一度ネット上に流出した情報は止めることができないなど、自分がとった安易な行動が重大な犯罪や事件のきっかけとなることについても触れたい。

(6) わたしたちの情報活用宣言

これまで学習してきたことをもとに「情報活用宣言」を作成する。これから情報機器を使用する際には、どのように使用していきたいか。また、正しい活用とは何かを考え、書かせるようにする。最後にメディアリテラシー、情報モラルについての標語をそれぞれ一つずつ作成し、わたしたちの情報活用宣言としたい。

< 標語一覧 >



4. 成果と今後の課題

話し合いの時間を設けことで、多くの児童のウェブページ・携帯電話に対する意識を知ることができて良かった。また、児童の実態調査も兼ねることができ、今まであった経験等を把握することができた。教材の中に具体例が多くあり、児童一人ひとりが自分のこととして受け止め、メディアリテラシー、情報モラルに関する意識の高まりが見られた。また、児童だけではなく保護者へも懇談会で、今回の授業の意図や趣旨について説明した。情報化によるトラブルや問題等は決して対岸の火事ではないことを伝え、家庭でもメディアリテラシー・情報モラルについて話し合うよう促した。

メディアリテラシー・情報モラルは一朝一夕で培われるものではない。年に一度、行っているケータイ安全教室だけではなく、児童に実態に則した情報教育を継続して行うことが大切である。トラブルや問題が起こる前に、家庭の協力を得ながら折に触れ、モラル向上を目指していきたい。

5. 出典

- ・『ちょっと待て、ケータイ・被害者にも加害者にもならないために』（日本視聴覚教育協会）